甲斐名勝志 三

秋山文庫
8-9
3

甲斐名勝志卷之二

萩原元克編輯

山梨郡之部

○山梨岡　名所也

古今　何しさの山ちかしとそ人のいふ　よくしらす

夫木　甲斐うのはよりとしかの山ちかの山　能因法師

類聚　やまとりもえしりぬ　ちかの山　よくしらす

○山梨岡神社　延喜式所載山梨岡神社也祭神大山祇命也

鎮座不詳神前甕と云一足の獸の像有り実は古物也説文曰甕

神龜也如龍一足孔叢子土石之怪曰夔云又国語曰木石之怪夔罔両云云社中小こなる石云者社領八石余此社より西北の山小東屋神社有祭神櫛姫也

○菩提山長谷寺真言宗相傳　元正天皇養老六年草創開山行基僧正也　桓武天皇延暦年中弘法大師再興ス伽藍と云其後何時の頃か廃壊せり今八観音堂弥陀堂聖徳太子八小堂仁王門而已存せり坊舎の跡處々小殘せり又此麓より東の方七八町許小寺本と云所有往昔の伽藍乃跡と云塔婆乃礎殘せり又立川不動と云大なる不動の像小庵の中ニ有り長一丈五尺許有坐像也是往昔伽藍の時の不動なりと云傳ふ按ニ法華寺の跡なり聖武紀曰天平十九年十一月己卯詔天下諸國国別令造金光明寺法華寺ハ國分寺也國家鎮護寺法華寺ハ國分尼寺と云法華滅罪之寺也此邊より菩提山の邊迄葬送の地なり今ハ古墳ともなる伽藍乃跡と覚しき地も處々に殘れも恐らくハ甚跡なるべし歟

○國府往昔国司の住ひ所也館の跡今不詳此地ハ守宮と云社有一説延喜式所載甲斐名神社也と云傳説も今不詳

○加茂明神加茂村祭神別雷神也相殿春日明神を祀り鎮

坐不詳社領三十石余相傳　後冷泉院御宇康平年中八幡
太郎義家朝臣東夷征伐之時有奉幣今社壇の中小幣串有
延喜式所載神部神社なりと云

○龍石山永昌院（曹洞宗）　相傳　後柏原院永正年中武田刑部
大輔信昌朝臣建立開山一華文英和尚（妙亀山廣厳院二世　諡神嶽通龍禪師）信昌朝
臣墓有永昌院殿傑山勝公と号寺領四十一石余山林有寺
中に竜石と云奇石有故小山号とも此邊を御前山と云
往昔合戦有し所也と云　鍬戟の折る或鏃等拾得るもの
又兜山矢坪なと云處是皆戦場の跡なりと云　甲陽軍鑑武田

刑部大輔信昌三才の時父信守卒此時家臣跡部上野介小
遺言して信昌十五歳迄補佐せむ文明三年信昌十九才の
時跡部依逆心及合戦信昌の石和館焼失寸跡被誅
と云予按此時の戦場の跡なり此麓岩下村は信虎誕生館
の云處有八石和の館の別業なり
○笛吹川又音取川とも云一説は子の方より酉の方に流る故
子酉川と云此川上数里は俗一釜と云深淵有
山の上空のもの波吹き鳴りなり故吹笛の川　夢窓国師
云風吹き鳴りなり故笛吹川の源の事なり　宗祇法師

土人相傳むかし上釜村より椎三郎と云者弓を毋笛を好めり椎三郎孝行なる者なり笛を吹て母を慰めり或時母川を渡らんとせしに溺死す椎三郎母の屍を尋ぬる事数日に及ぶ或人の告に川邊を尋歩行笛を吹或いはひしかば水の淵より笛の音聞へ捜し死すいまに八子酉川と云時より笛吹川と名付る淵を移し原淵と云此淵中に毎月廿日の釈尊の光あり小松村去る頃はれて漁獲一甚霊魂を弔ひ給へり

より火の光を見る事度々神なるべし云

○差出磯　笛吹川の西岸より名所なり一説に海の山を横

合る奇石一亀の甲石と云奇石何り此磯邊の山形遠所より望に八巨鼇の匍匐しかたより故に亀の甲山の称

とつけしなるべし欄

古今　作者不詳

駒の山さしかの物ぬ駒ちとせ君がみよとは八千代ちとぞ

新後撰　前大納言雅信

駒ぬ山さしかの物の駒の秋の月八千代住つと教を尋る

新千載　忠房親王

小枝ちらす宿に成ぬ清流の中しとの物ぬ波やさすらん

玉葉　権中納言長方

沖つ波八ちとせの波ちらす風急しよりて友なふ

夫木　後徳大寺左大臣

波さくさしかと成ぬ宮ねまつ神めぐりせぬ

同　前大納言資季

年ゝを長ハ千ちとせ君ぬ山の物ぬ宮波

夫木　波の上や[illegible]の秋の月新　民部卿為家

同　[illegible]　従二位範定

同　[illegible]の山[illegible]　左近中将経家

同　[illegible]山の[illegible]　神祇伯顕仲

六百番哥合　[illegible]　中宮大夫定房

白川殿百首　[illegible]　源俊平

草庵　[illegible]　順阿法師

四国記　[illegible]　宗祇法師

亀の甲[illegible]　作者不詳

○寢滝社　差出の磯の西南行数の傍なり

[illegible]の山　作者不詳

○窪八幡宮　祭神三座應神天皇　仲哀天皇　神功皇后也若宮　仁徳天皇　高良社八武内大臣也社領三百七十石余神人社僧数多なり　相傳延喜式所載大井俣神社也

三代實録曰　清和天皇貞観五年十二月九日以甲斐國大井俣神列于官社同七年三月廿六日授正五位下ス　社記曰

清和天皇御宇貞観元年二月廿二日和氣朝臣彛範豊前国守佐宮奉勧請其後　後冷泉院康平年中新羅三郎源義

光朝臣夷賊征伐之後依祈願奉再建本社之南方有天神祠
當社鎮座以前所祀地主神也祭神少彦名命也云云此地八
玉の井の旧跡あり倭名鈔所載玉井郷也と云傳大井俣の地名ハ
東南の方八里以遠近往昔の社領内也と云

○水宮 西小原村 相傳延喜式所載大井俣神社也鎮座不詳本
朝諸社要覧曰甲斐國山梨郡井俣之地有大井俣神社相殿
八座所祭神五男三女云云 世称八神代巻曰天照大神與素戔
烏尊約束相換取剣玉化生五男三女云云 社記曰井俣者跨
于真名井之称而祭此神者不可疑云云 今社傍真名井之旧

趾存往昔地主鎮座の神八王子雅魂と称する此地音厳川の邊
あるより水神を祭水難鎮護の社と寄又相殿を諏訪の神社
祭るより地主の神を八良の方を遷し奉る夫隠棲の神と云此邊を
井俣と云 今八今田と号り水神鎮座の後水宮と改弘治二年
神殿修補之棟牘ハ井俣宮八王子大雅魂と号今窪八幡の
社と両社と共大井俣神社と云説あれハ何も号あることを考
ふ知かゝ

○七彦郷 今八七日市場村と云此地の米往昔大嘗會獻と又
産所の七夜の用る米と号り七彦の郷と云此地八貢の社為今八

三木明神と云 祭神彦火火出見尊也

夫木 君か代ハ七喜のかみ七ッ星ハ天にこそあきらかなれ 俊成卿

七そこや君の御貢のよりくるかし出瑞の浜のまさこ 作者不詳

貢せしそのかみよりそ七喜のいまもまた人を祝ふ神の瑞垣 作者不詳

○乾徳山恵林寺 臨済宗 相傳 後醍醐天皇元徳二年二階堂出羽入道道蘊建立也開山夢窓国師其後 光明院貞和年中足利将軍源尊氏卿再興也武田家代々崇敬天正十年三月武田家滅亡之後織田信長家臣河尻肥後守ゟ為ニ伽藍焼失僧徒等楼門ニ隠レ居て焼死る者九十余人其後末宗和尚 東照神君乃命を承て伽藍再興せり享保年中柳沢侯諸堂舎修補ありて壮麗なり武田機山侯廟木像有恵林寺殿機山玄公と号又側に柳沢保山侯の廟有夢窓国師所作假山今ニ残れり寺領七十二石余山林有

○高橋山法光寺 真言宗 藤木村 相傳當寺ハ往昔萩原郷の奥高橋村ニ有しを 後鳥羽院建久二年安田遠江守義定此地ニ遷し再興して本尊大日如来以賀賢上人開祖とす寺領十七石余古鐘有銘曰甲斐國牧庄法光寺奉鑄施鐘一口建久二年辛亥八月廿七日遠江守源朝臣義定云々側ニ墳墓有東鑑曰建久

五年甲寅八月十九日安田遠州依謀叛被誅ゑゝ一説居館の跡西小原村ゑ在と云要害地ハ西保保田山と云所ゑ在今其跡存ス

○城古寺（ハ）甲陽軍鑑永禄の頃武田機山侯今川家と合戦の時夢中ゑ四天王の加護を蒙り勝利を得ゆ其後此地ゑ上求寺と云寺を建立給ふゑ天正の頃東照神君上求寺を久保平村ゑ遷し塔と築き内藤三左衛門をして守護せしめ上求寺を今ハ浄居寺と云又倉科村の内まをけ山と云所上求寺の不動と云ゆ往昔上求寺の内ゑ有し不動なる尾

○唐土明神（トウト）（角科村）祭神素戔嗚尊也相傳延喜式所載黒戸奈神社ハ黒戸奈の戸を誤り戸と書あやまり黒戸奈神社也と云一説御嶽の奥黒平と云所ゑ黒戸明神と唱る社あり黒平を今黒ぶゝと云ぶゝハ（ホ）のなまれるなり黒戸奈（ヘナ）乃神社ありと云何也ゝ是ある歟

○松尾神社（小屋鍛冶）祭神東ハ大山咋神西ハ若山咋神若年神大己貴命素戔嗚尊蛭兒命（凡六座称松尾大明神）中ハ神明宮西ハ幡宮也鎮座不詳相傳延喜式所載松尾神社也此邊を松尾の郷と云社領十三石余

○鹽山向嶽寺（臨済宗）相傳後小松院至徳元年武田刑部大輔信成朝臣建立開山拔隊禅師臨済宗乃内ゆく拔隊派也

其本寺なり寺領三十石余山林有當寺は唐土の金山寺より
渡し鋼磬有徑一尺五寸六分厚六分銘曰淳熙參年十二月
十二日造と有又寺中に尼寺有傳云赤松入道圓心の娘授
像禪師の戒を受て剃髮し尼となり此に住りしと云此地に溫
泉有毎年七八月の頃諸人群集して浴して愈病有功
○菅田天神 於曽村 祭神菅公也社庵不詳社領十一石余
毎年六月晦日御祓祭有神殿の内に武田家累代の寶器無
稱鎧有是高祖伊豫守源頼義朝臣 後冷泉帝より所賜
也此地八幡名跡所載於曽郷也

○裂石山雲峰寺 臨済宗 相傳 聖武天皇天平十七年行基
僧正開基也本尊觀世音之像開山の作也と云山中に裂石と云
巖の裂目有故に山号と云武田家軍陣の旗二十六流並
馬印等有
○岩間明神 荻原郷神戸村 祭神九座神直日神大直日神八十枉日神
底津少童神中津少童神表津少童神底筒男神中筒男神表
筒男神鎮坐の社和傳延喜式所載神社也神戸今なしと
唱伝ふ神戸なしと云訓有神部神戸訓同一是八神部
の神社と云説據なき也何ぞ前に云加茂神社も神部乃

況ハ此両社何れか是なるか分かたし

○玉宝明神　竹森村　祭神玉屋命也法華経相傳迹表所

載玉諸神社也社壇之中に大なる水精有周囲五尺許高七尺

許地中より出る社中に多く精数多有傳聞陸奥国金華

山に大なる水精多高十餘丈然ともこれ真の精乃

大なるハ此社の水精歟大なるなりと云傳予按本州個目

白水精白頗黎之属也有黒白二色徳国多水精第一南水精

白亞水精黒云々○萩原郷の小黒川と云山の奥より往昔

黄金出て云武田家の頃甚黄金多し甲金を作る今

神に有古甲金と云ハ是なる事

○熊野権現　熊野村　祭神西方三座伊弉冊尊夏解男速玉男中

相殿天照皇太神　国常立尊　東方忍穂耳尊瓊々杵尊彦火々出見尊明賀宮

鸕鷀草葺不合尊也鎮座不詳　後白河院依勅願保元二年造

営の事社記に有社領廿八石余往昔八横井村と云

○安國山立正寺　日蓮宗　休息村　開山日蓮上人也當寺八身延山より

以前に所建當國最初の道場也寺領十八石余

○等力山萬福寺　一向宗西派　等力村　相傳往昔天台宗にて天眼寺と

云寺也巨麻郡に有一ノ何れの頃か此地を選ばれ風土記曰

天眼寺寄田二十八束三畝二字田大宝二年壬寅三月延叡僧
開基也中古源誓上人より當寺の御坊と称し万福寺と
改む庭前に馬場石と云る中院大納言通茂卿の詠歌
むく弱もとのもとかしかれておしなべてあさのゑ
○諏訪明神 等力村鎮神事代主命也相傳延喜式及風土記
所載笠屋神社也風土記曰笠屋神社圭田四十五束三毛田
雄略天皇四年庚子十一月所祭事代主命也有神家巫戸等
ゑ〻當社は往昔巨麻郡小宮に坐の頃より此地に奉遷今
神躰は事代主命の像を信濃國下諏訪の社に事代主命と云

○大瀧山 大小二の瀑布を俗に雄瀑布雌瀑布と云側らに小
不動堂あり
○硯川 菱山の岑より出る川也硯石出る前に人今硯洗と云伝
禁庭に奉しよりこの名流る故に名人多あれとも
甲斐源氏なる山のおくなる硯川すみ流すとかいふ
見渡せは見くるしく硯洗ふ神もあらん
○柏尾山大善寺 真言宗 本尊薬師加来相傳 元正天皇養
老三年草創開山行基僧正也其後 平城天皇大同年中再
興也今の堂は後宇多院弘安年中所建也平相國清盛

源幕府頼朝足利家代々の御教書等多し寄願二十石原山林
有此邊勝沼岩崎の二村より葡萄出當國の名産也
宗祇田國記曰甲斐国山多し一名一ばれ波沼乃
いく代の世の幸あれ一さと河沼さよ巻きりけり
れハ立ぬ石ハ注世中ハ山ハ加ハ
中ハ山ハ物尾山ハ
加ハ
○勝沼驛の邊小御所と云處有武田家後勝沼殿の館
永禄三年十一月三日武田の命を承て山縣昌景勝沼の館

押寄て召捕て誅戮す此時勝沼氏滅亡是上杉家より通ず也
○天目山栖雲寺（又木賊山と云　臨済宗　相傳後小松院應永年中武田
安藝守信満朝臣建立開山業海和尚也武田信満朝臣墓有
長松寺殿明庵号寺中有二十景業海和尚の詩信満朝臣の奇
歩り景を往昔八景領四十八貫文有
○天童山景徳院（又田野山と云　曹洞宗　相傳正親町院天正十年三月
武田勝頼朝臣生害の地也勝頼朝臣の廟並従者四十六人
位牌有勝頼朝臣八景徳院殿頼山勝公と号し其後
東照神君建立一宇の寺也初中山廣嚴院の僧拓橋氏

後良尊和尚住せり其師骨山和尚を推て開祖とす（此地屬八代郡）

○初瀧野山　西行法師此地に住せり

甲斐なしの哥の詠の所ハ此地なるよし

○五社明神（栗原村）祭神五座國常立尊伊弉諾尊伊弉冊尊

大己貴命少彦名命也鎮座不詳　平城天皇御宇大同二年修造

の事社記あり社領七石余又此邊は栗原左衛門尉館跡有

○橋立明神（吉田村）祭神伊弉諾尊伊弉冊尊也結也解

相傳延喜式所載金櫻神社也此邊は金櫻田と云地名有此地

に昔の神社の跡也御供田別當免田並本大神宮の畑

地の字有又此東の方は少利有天文の頃今の社地に遷一祀を

爲今御嶽山の神社を金櫻神社也と云何と云ふ事なるや考難し

○石森丘　此丘四方の山を離て大事數里にて村里の間に

奇巖怪石を畳みなし深山幽谷のごとし實は都代の岳也中に

神社有國立明神と熊野權現とを合せ祀る其側より

小なる水滴を産す是白石英也予按本草綱目白石英

六稜白色若氷精と云是歟

○海涌山清白寺（臨濟宗　豊後屋鋪村）開山夢窓國師也惠林寺より以前に

所建立也其時代の觀音堂今は存せり側らに西湖梅并右

未有芳躅より異なり和伯國師八幡の府庫上の西湖より種と
持来る所栽し咲遍き古錦繡なり何人の錦繡と云ふ
○大野塔　天正十年七月の頃北条家衆の勢大村伊賀岡
三右衛門等籠城し穴山梅雪の兵を著　東照神君の
仰方也しと押寄戦ふて大村勢打負て人数
戦死せ諸の跡今繁る荒地也
○相本山大蔵寺　芳名宗　相本村　草創不詳和伯　後光厳院應安
三年中興開山観道上人の時吳利獨軍源義満公祈願七
伽藍を再建し三層の宝塔を建康本の大鐘を納め

南山夫与大蔵寺号往昔、相本寺と称し其後兵乱の
災よりして伽藍廃壊せり今塔の礎石当領二十九ヶ余
○十社明神　相本村　物部十社明神と云和伯物部氏の祖餓
遠日命穿麻志麻治命与物部氏の祖十神を祀る延喜所
載物部神社八是也
古月八日授甲斐国従五位下勲十二等物部神従五位上
同八年三月廿八日授正五位下同年閏三月十八日授従四位
下同十八年七月十一日授従四位上陽成天皇元慶四年
二月八日授正四位下其後不考伯耆国事八凡例歟此遍

川田と云村有神服部郡司称徳紀曰神護景雲二年秦
神服部天下諸社に今小社と称す梅松寺、往昔の寺号也
○荒原塚　和戸村の西南の方に歩り壹人在家塚と云是在家滋
秦墳墓也滋春、業平の二男也文徳帝の頃の人也古今集に
りの歌に詠て侍る人也きりくの宮かたの山に
ひとりいまはとなれる人を思ふ
かたみとてこの川ぶちの草をいまは形りの如くなるの場
大和物語に有むの御ぶいりとて
其如とてよみ給ひしとかの遺り琵琶塚藤塚御家塚

古塚あり是皆附属の墳墓なり今世傳を失ふ
○國玉明神国玉村三宮と称　祭神大国魂神也鎮座年代　二宮院宋
萬元年當社より神馬を獻上神祇伯家記録に有と云
延喜式所載玉諸神社也社領六十三石往昔酒折の御屋山に
鎮座神主伊地の頃此地に遷し祀る御屋山に云ふ所の沖の出
○稲積庄　東鑑曰承久元年辛丑七月廿九日入道二位兵衛
督有雅為小笠原三良長清豫下着甲斐國に稲積庄小瀬村誅之
今小瀬村小藤塚と云有是也雅を葬し塚也と云伝此遺を稲
積の庄と云なり

○住吉明神 畔村 祭神四座表筒男中筒男底筒男神功皇后也相傳 称徳天皇神護景雲年中鎮坐往昔八高畑村在しを正親町院元亀年中今の社地に遷祀社領十五石余

○天津司社 小瀬村 土人相傳往昔何ぞの既に有りし此地大なる川原なりし毎年七月十九日九の霊形天降り給ひしのち村里となりてより不浄なる一切を禁ずるや之の甚後此地の東なる油川村の井戸にうるはしき木像を造りしとあり大永の頃武田民部少輔信果依造の書状あり七月十九日祭礼有り下鍛冶屋村鍛冶屋宮の社や御幸有此社建御名方命天児屋根命を祭りし油川の井今よりの日より昊形にうるはしき前日より蓋をおほひ九体の昊形八九曜なりしく星の神をあらはすと云

○酒折天神 又坂折とも書 往昔日本武尊東夷征伐の時此地に行宮を建てしあり處也多神日本武尊也又八幡の社也景行紀曰四十年夏六月東夷多叛邊境騒動云々日本武尊自日高見國還て西南歴常陸至甲斐国居于酒折宮時挙燭進食是夜以歌之問侍者曰珥比麼利莵玖波鳴須擬区異玖用加称莵流諸侍者不能答言時有秉燭者續王歌之末而歌

曰伽餓奈倍氏用珥波虚々能用比珥波苔鳩伽鳩即美秉烛
人聡敦賞則云〻　古事記曰譽其御火焼之差人即給東国
造云〻東国八上野国吾妻郡ゟ下ハ往昔八郡を四ツ云方等
集小吉野国泊瀬國ゟ云類ゟ下ハ以御歌を連哥の椎輿す
往昔の宮跡を古天神と云一説東国造ハ甲斐国造の誤ゟて
秉燭の差人ハ塩海足尼也と云
○定額山善光寺浄土宗府中　相傳　正親町院永録七年武田機山
矢建立也開山鏡空上人始ハ信州善光寺乃如来を選〻ハ
慶長七年豊臣秀吉公京都大佛殿に遷〻ハ

て信濃（還）〻ハ今の本尊ハ其後新〻に鋳奉ると云寺
領三十石山林有以邊を板垣の里と云
○功徳山尊躰寺浄土宗府中　相傳　後柏原院大永元年武田形部
大輔信虎朝臣建立開山辯誉上人霊印和尚　後奈良院天
文二年信虎朝臣依奏聞深草功徳山天尊體寺と勅額〻ハ
其後　東照神君天正十年八月より同十一年三月まで當寺に
御座有ると也人〻ハ甲府中に有ると慶長の比以
地に遷すと云寺領七石余

○稲久山一蓮寺 時宗 府中 相傳花園院正和元年武田甲斐守時信朝臣建立開山法阿上人 時信之弟 寺領百八十石往昔ハ今の城地に在しを文禄年中浅野霜臺後此地に遷す かの稲荷社有

○化龍山光澤寺 一向宗東派 府中 相傳當寺ハ往昔相州萩村に在所有蛇伏山應瑞院長延寺と号天文の比院主実了法師武田機山侯の請によりて寺を甲府に遷し寺領二百貫文を八代郡上岩崎村と信州の犬飼村に賜ひ機山侯の次子龍芳軒乃長子を実了法師の養子としみづから顕了道快と名のる其後天正十年兵火にかゝりて堂舎悉く焼亡す　東照神君當國へ御の時境内二万歩をあたへ延長寺を再興しあたふ 往昔の寺地ハ今の郭内にあり 其後故ありて本山乃離刹となりて化龍山光澤寺と改む寺領二十石

○浅間明神 府中 相殿に白山権現を祭れり諸書を挙ぶに延喜式所載甲斐名神也と云 按に甲斐名神社と唱ふる社いくらもあれハ何れか是なるを詳にせず

○法蓋山東光寺 臨済宗 東光寺村 本尊薬師如来開山蘭渓道隆和尚也和尚者大宋國西川人也　後深草院建長二年北条相模守平時頼建鎌倉建長寺為開祖　後宇多院弘安元年七月廿四日寂勅謚大覺禅師當寺往昔ハ建長寺派なりしが

天正の頃より妙心寺派となれり武田太郎義信墓有（号義山良公）

大禅定門　寺領十四石山林あり　予楊風土記よ、代郡東限東光寺谷とあるよ、都留郡長濱の東光寺なるべし

○上条地蔵　号白輪法城寺又稲積地蔵と云相傳　元正天皇養老年中行基僧正巨麻郡條原岡に一宇を建立せり其後　淳和天皇天長年中大洪水有国司より　朝庭に奏聞せらるゝより勅使を下し水江の川上より白輪法城寺と勅額を賜り宣命を以て龍神を鎮め今其跡五の社是也と云水江の文字御勅使し書改し云治暦年中新羅三郎義光古上条に遷し武田機山侯古城の南塔岩の郷に遷し奉る又天正の頃今の地に遷し奉る云今東光寺に属す

○定林山能成寺　臨済宗府中　本尊阿弥陀如来當寺は武田刑部大輔信守朝臣建立開山業海禅師也武田信守能成寺殿勇山健公と号寺領廿五石余

○瑞雲山長禅寺　臨済宗府中　當寺は往昔巨麻郡鮎沢村に有て夢窓國師開祖也中興開山岐秀和尚の時武田機山侯此地に遷給機山侯母公の墓有（長禅寺殿心月珠泉大姉と号）母公當寺に添し山号去る記録に見えたり口授に聞くもの多くは口授にもとづくべし

寺領無高山林有今巨麻郡鮎沢村も長禪寺有古長禪寺と云

○夢山　名所也上宋地蔵の西あり其東北の古道佳肯

躑躅ヶ崎の城への通路也と云

名寄　彼人おぼつかなくて夢のうらみ　仰名詳

○萬年山大泉寺　曹洞宗古府中　相傳當寺武田左京太夫信虎

朝臣建立開山天桂禪長和尚當寺は武田機山侯寄附の身

延山祖師日蓮上人真蹟の法華經全部あり又寺中は富士

の池と云有富士川の濫觴也と云　機山侯誕生の時寿陽

に用ひしと云寺領三十石

○八幡宮　塩部八幡と云古府中　右傳武田氏躑躅崎の城築の時石

和の八幡を遷し奉其後淺野弾正侯今の社地を奉遷城

地鎮護の社也社領廿石毎年八月十五日祭礼有

○躑躅崎城　右傳武田刑部大輔信綱朝臣石和館を

築き城也勝頼朝臣迄四代住の其後川尻肥後守平岩主

計頭用共少将加藤遠江守住の淺野弾正侯の時新城を

築き遷り故城は今本丸斗残り外曲輪は皆田畠となり

西の方に竹原有此外を截て又ふたつに分て武田北

殺害菱の形有又北の方積翠寺村の山巓を要害の跡

あり武田家の時築たりとし今御要害と云此處は甲斐水
いるゝ火天旱魃かし減する事なし〳〵云又此邊は源州の說者
とて岩窟の中にあり

○金剛福聚山法泉寺 臨濟宗 和田村 相傳當寺は武田甲斐守信
武朝臣建立開山夢窓國師信武朝臣墓有清淨心院
雪山聽公と号勝頼朝臣墓も有信玄寺殿泰山安公と号
寺領五十四石山林有

○瑞巖山圓光院 臨濟宗 窪岩村 相傳當寺は武田機山侯の室轉法
輪左大臣公賴息女建立開山說山和尚寺領無高山林有

○增福山興因寺 曹洞宗 積翠寺村 相傳 後土御門院文明年中草
創開山拈笑宗英和尚寺領廿五石余山林有覽永三十年十
二月 後陽成院第八皇子二品良純法親王當國左遷の時
秋元越中守守護しまりて當寺に入らせ給ひ滯留し
給ふこと十二年なり 此御殿の庭に井戸あり山おろしの
なけいきゝ手けゝ板の庭に井戸あり山おろしの
と源一郎より世に杜鵑鳴きりりと聞えなり
市川の郷藥王寺に遷御なり立年ありて萬治二年歸洛
あり其後寛文九年八月都にて薨し給ふ

○廣敎山信立寺（日蓮宗府中）相傳當寺ハ武田左京太夫信虎朝臣建立也開山日傳上人身延山其後武田機山侯園中ノ梅を移栽ゆしに自制詞を書ゆ〻今ゆゑ寺領ハ身延の塩沢なりゆゑ

○室塔山遠光寺（日蓮宗遠光寺村）相傳當寺ハ往昔真言宗なりしが伏見院正應の比宗明法印より當宗となりこれを日宗上人と云今寺領十五石余一説に加〻義次郎遠光の建立也と云

甲斐名勝志卷之三終

甲斐名勝志卷之三

萩原元克編輯

八代郡之部

○八代郷　風土記或ハ谷志呂と書

○熊野權現（八代村）祭神三座伊弉冊尊事解男速玉男鎮坐不詳社領三十七石別當千手院毎年三月三日祭祀有俗舟祭と云ふの比より始まると云ふを考るに一説に壽永年中より始まると云

○美和神社（二宮称二宮村）祭神大己貴命也風土記ハ三輪と書

社領百七十石余風土記曰圭田三十五束三字田但以出貢續其貢民戶微少也

守國奉奏　雄畧天皇十二年九月始祭之云々社記云　雄畧

天皇御宇國造鷺王之子坂名井公為社司　三代実録曰

清和天皇貞観五年六月八日授甲斐國従五位下勲十二等

美和神従五位上　同八年三月廿八日授正五位下　同十

八年七月十一日授正五位上　陽成天皇元慶四年二月八

日授従四位下社記曰　後宇多院弘安年中元蒙古襲来

之時有勅願異賊敗没之後正一位勲一等奉勅額今尚存

屬祠鷺王祠国造鷺王之父称太郎子　日御子祠日本武尊　有又尾山村山宮と云社

伝相傳　景行天皇の御宇當社鎮座の地也　雄畧天皇

の御宇今の社地に奉遷此遷什居村の小字鉾乃木と地名

何れ又尾山村の南に槻本と地名の内に鉾衡の神社と

云説ありしかるに此説に風土記天鉏女命城

ありしと出れども此説に詳

○國衙　往昔国司の治めし所也今其跡定かなる

俗名柳所我國府在八代郡と云ふ此地なり山梨郡の

国府八此地より遷れり此遷國立明神の社有国造の始

祖塩海の宿禰と祀る　往昔八毎二月国司長官以下長

會國廳幣を奉り年を祈る大社八絲三両小社八綿三両用正税国司自齋戒して呼祠官頒之其儀儼然たりと

○圓通窟井上村有又姥塚と云窟中安置觀世音菩薩土人相傳大古有神嫗一夜小作る故に姥塚と云一説に時塚御馬塚の誤なり甲斐の黒駒を葬る塚也と云又一説に むかし火の雨降る時草木の時居宅いやしく堅固なる大なる氷雨降て人民及山野の禽獸を害事有其害を免れ免れ此なる石をくみて其辺に廬舍を結び住しなり今も此國に大なる氷雨降て山野の禽獸を害事時々有今八居宅も堅固なれ八人民此害を免れ

倭名鈔曰雨氷比左今按俗云比布留云火八氷の誤なり

此外小なる窟八國中處々に數多有是皆此類なり神武紀巣棲穴住習俗唯常也と云し如く大古人の住跡なる

倭名鈔井上郷山梨郡に八此地の邊の比なり此地に邊なり

○石和郷　今八石和と書往昔山梨郡也近来屬八代郡武田大膳太夫信光朝臣より武田氏此地に世をかさねしなり錦の跡八流失して定なし一説に観音寺其跡と云又此邊に高坂屋鋪と云有武田家士高坂彈正昌信住一處と

八幡宮武田信光朝臣巨摩郡武田より遷し奉る社也往昔笛吹川川中島村の東より鵜飼川流を合せ此遷は菊
ゟ嶋と云所有土人相傳昔平大納言時忠卿此地へ配流せられ
夜々石和川へ出て鵜をとらしめ魚をとらしめ殺生禁制乃
地なる故或寺の僧徒等捕て此川瀬へ生埋に沈めり尺
其亡霊猶鵜をとらしめ日蓮上人渉度して一寺を建立
し今の精舎山遠妙寺是也とかなりて石和川を彩舟川
と号ぶ平大納言時忠卿は能登国へ配流乃支平家物語及
源平盛衰記東鑑等へ見へたり今能登国へ傳聞なしと

東鑑曰元暦二年九月廿三日前大納言時忠卿下向配所能
登国云々又曰文治五年三月五日平大納言時忠卿去月廿
四日未刻於能登国配所薨之由達関東依有智臣誉先帝
朝平家在世時輔佐諸夏雖當時為朝庭可惜欽之由二品被
仰下彼年齢有御不審數輩雖候御前無覚語人仍被尋大夫
属入道之處六十三之由申之云々依之考へ平大納云ふハ
あらざる歟後人乃誤傳ものなるか
宗祇田國記曰武田ゟ館へ抽所ゟ宿所一のこゝろ
ゟ祖母の比丘尼の寺へ招引ゆくゟ風情を疑

[illegible]

○神祖明神 檜立社中大きなる杉樹あり七圍半許 寛永帝代の杉や

加賀美先生曰延喜式所載甲斐名神社是なり 神祖の字

カ美倍伎と訓 續日本後紀曰 仁明天皇嘉祥二年三月庚辰

興福寺大法師等奉賀天皇宝祚奉獻其長歌詞曰日本乃

野馬臺能国遠賀美倍伎能宿那毗古那加葦菅遠蘆生志

津津国固来造仍年與理 神代卷曰大己貴命与少彦

名命戮力一心經營天下云 意は甲斐の少彦名命の事

国なり甲斐名八甲斐を名づくるの意にて神祖少彦名

命なり此辺倭名鈔所載山梨郡林戸郷也今八代郡に屬す

○護國山国分寺 聖武天皇勅願所金光明四天王護国

寺号開山行基僧正也 聖武紀曰天平十九年十一月己卯

詔天下諸國国別令造金光明寺其金光明寺各造

七重塔一區並寫金光明経一部安置塔裏云 天平勝宝元

年七月定諸寺墾田地金光明寺一千町法華寺四百町云

諸國分寺毎正月八日より十四日迄轉讀最勝王経支神護

景雲二年製せる建久五年修復破壞支東鑑にあらず

今伽藍跡塔の礎殘り迫来臨濟宗と為り

○淺間神社 當国々一宮也 祭神木花開耶姫命也 社領二百三十石余

風土記曰淺間神社圭田百五十束三畝二字田 涵目入彦

五十狹智天皇八年己亥正月始被祭之 有神家巫戸等云々

涵目入彦五十狹智天皇者垂仁天皇也 社傳曰風土記所載神社八今山宮是也 木花

開耶姫命相殿瓊々杵尊大山祇命を祀り貞観年中入

社地奉遷山宮棟札永録元年戊午中冬吉日神主伴重盛と

又云神主重盛迄五十八代と者今如あるまて伴氏代々祠

職を月鎮座より今天明二年壬寅迄凡千八百十六年也

建久五年社頭修復破壊支東鑑まとくさり 三代実録曰 清

和天皇貞観七年十二月九日丙辰勅甲斐國八代郡立淺間

明神祠列於官社即置祝祢宜隨時致祭中略以八代郡擬大

領無位伴直真貞為祝同郡人伴秋吉為祢宜郡家以南作建

神宮且令鎮謝云々 郡家八郡司乃官廨也 武田機山侯當社ねて詠しめ給

初秋の花の宮甲斐のくに神のまにまに

○中尾神社 中尾村 飛永明神と称祭神大己貴命也鎮座不

詳相傳延喜式所載中尾神社是也

○守國明神 野呂村 相傳仁明天皇之皇子守國親王有罪被

配流甲斐国野呂郷辻と云所に住す一条院長徳四年戊戌
歳一百六十歳守國大明神と祀其子孫を後世三枝と称
○矢作村 此地八往昔弓矢作りし所也延喜式曰甲斐國所
獻弓六十張征箭四十具云々文武紀曰大宝二年甲斐国獻
梓弓五百張詔充之大宰府云々又市川郷に矢作と云所
有是亦同此邊ゟ都塚と云所有明和乃頃里人塚を発らるゝ
八角の鏡並太刀出ら意小往昔乃墳墓なるべし都塚の名
の如く名あるゝ公卿なるの墳墓なる惜しゝ〻八今其傳を失ふ
○金剛山慈眼寺 真言宗 未木村 本尊千手観音草創不詳相傳

後土御門院文明二年宥日淡印中興也天正十年武田勝頼
朝臣没落の時遺物を當寺ゟ紀伊國高野山へ贈られ
請取文有寺領十五石余
○國建明神 塩田村 社中て大なる古木の朽る後に存ら
里人傳云當國開闢の時の木也と予按舊事紀ハ景行天
皇御宇塩海足尼を甲斐國造と寸し足くゝら國造の祖
なるハ開闢ゝ云て塩海乃足尼を祀るなるべし
○姥亀山廣厳院 又中山と称 曹洞宗 相傳 後花園院寛正元年草創
開山雲岫禅師也武田刑部大輔信昌朝臣塩田長者今泉道

珠と云者ハ命て伽藍を建立せし也今塩田村ハ長者館の跡
とて有ハ是なり寺領八十三石山林有

○黒駒郷　往昔甲斐黒駒と云名馬出一所と云傳此地ハ往昔の
驛路也雄略紀曰木工猪名部真根有罪付物部刑於野中畧
以赦使来甲斐黒駒詣刑所止而赦之解徽纆授作歌曰
農播抱麻能柯彼能矩盧古磨矩羅枳制播伊能致志難磨志
柯彼能倶盧古磨（はあの表ハぬゆ玄ハ黒し、こん冠字あり、てきせべし、ハ鞭
令被ハ心のちもるゆ一ハ命死もんと志鞭を以て苦しめ其苦
真根殺さるゆ一裸背
馬ハ縛て池せらるゝなり）聖武紀曰天平三年十二月丙子甲斐国献神
馬黒身白髮尾中畧其獲馬人進位三階免甲斐國今年庸及出
馬郡庸調其國司史生以上並獲瑞人賜物有差云々
一書曰　推古天皇六年夏四月太子命令求良馬府諸國令
貢甍岩國所貢馬驥駒四脚白矣秀絶数百駿中太子指此馬
曰是神馬也餘皆被遷令舍人調子丸嚴重加飼養矣云々
或人の云此書ハ全く後人の妄作なて
信用なしがたく奉ハ猿橋の條かゝ

○龍王山称願寺　時宗号黒駒道場　相傳　光明帝暦應年中草創開
山遊行二世他阿上人真教和尚也黒駒領主讃岐守泰清建
立洽名ハ称願寺殿浄阿と号寺領三十九石余山林有

○神座山薬王権現　号檜峯神社祭神少彦名命也相殿素

戈烏尊大己貴命化ゐ給ふ東南の山を嵯峨嶽と云絶頂に祠
有高皇産霊尊を祭る今俗に釈迦嶽と唱ハ嵯峨嶽の訛
あるか一黒駒里より山中に入事一里余四月八日祭礼有當社ハ醫の
祖神也ゆへ四方より國中の諸人参詣のもの多し社領
廿六石山林凡三里　三代實録曰　清和天皇貞観十年九月
甲斐國擒峰神授従五位下　社記曰　朱雀天皇承平年
中平将門征討の時奉幣願書有今猶存
○小山故城　一云下山御館土人称穴山伊与守信永の
居館也其祖逸見の穴山より傳り故に称号とす其後河内下山乃
館に遷り又此地に遷る天永の初南部氏の子孫彼地に於て二宮村
常楽寺に住居也其後生害也其後生害の跡島井元忠墓と云信永の墓
有東勝院前与州塚鐵上号
○花倉郷　竹井村の邊也一説に當宿村なりと云
四国記　ちよとゆ　ちよとゆ　やもりひて　ちるは　ちるの花　京張佛
又花倉塚と云者此邊に又穴有墨俗云南の方鳥坂山に登る
川の方に沢あり又こゝ也陽の花なるの灵火と云人ある時こゝ
に掛ハ木艸綱目曰野外鬼燐其火色青其形如炬或聚或散
俗呼鬼火或云諸血燐光也云一説に穴山氏南部氏と戰ふ

其討厥南部の兵の数百級の鼻を切取て埋之故に俗呼云鼻取
塚又共邊岡村より剣を塚と云者近き頃里人塚を発りて鏡二面
太刀八口朱数多出り意は是往昔の墳墓なり其太刀の内
小諸刃の剣七つ万葉集に剣太刀なりと記たるとよ
の如く実は上古の墳墓なり共辺に古墳数多あり
○矛立明神 米倉村 祭神天細女命也 本伝延喜式所載
榊衝神社也 風土記曰榊衝神社圭田三十六束三畝田 仁徳
天皇四年丙子四月所寄天細女命也云々
○金富山龍安寺 曹洞宗 米倉村 本伝 後一条院治安元年 弘慧法
印開基而号永治山真福寺 嘉吉密宗之道場也其後 白河
院永保二年改金富山称号 後之厳院貞治六年嘉言
之法断絶而成曹洞宗寺領二十五石余
○無碍山瑜伽寺 臨済宗 永井村 本尊薬師如来 本伝 元正天皇霊
亀元年草創開山無音律師也中古より当寺領
五石余共地八幡多田所裁長江の郷也 風土記国宗寺と云是
天武天皇三年二月定快法師始行曼陀羅供舎と云寺也今
何比のなしと云へり世に後の考に待のみ
○大野山福光園寺 真言宗 大野寺村 号蓮華乗院本伝 後白河院

保元年中大野對馬守と云人建立也開山賢安上人往昔ハ
大師なと云　正親町院天正二年勅号福光圓寺寺領廿六石
余山林有

○長源山聖應寺　臨済宗拔隊派　黒坂村　初偽　後圓融院康暦元年
創開山道雲禪師　後小松院應永二年武田信滿朝臣再建
也寺領四十九石山林有

○靈亀山永泰寺　臨済宗　古閑村　草創不詳初偽　後醍醐天皇元
享四年夢窓國師再興也本尊釈迦如来昌首羯磨作也云

○佐久神社　上向山村　大宮明神と称号神手力雄命也社領十
九石余此辺を佐久と云初偽延喜式所載佐久神社是也又
河内村に佐久明神の社有何也の比地より遷しなるべし
風土記曰佐久神社或避社圭田六十七束三毛田　雄略天
皇二年戊戌六月始所祭手力雄神也有神家巫戸等六月已
午日毎年倫弓矢及鉾行神事云々

○吉國山龍華院　曹洞宗　曽根村　草創不詳相傳　後柏原院永正
年中桂利昌和尚再興是なり曹洞宗と成一説云風土記所載
白井郷領瑞寺是なり風土記曰領瑞寺寄田三十七束三
毛田　天武天皇三年釋勝應始安置四天皇像云々天正十

年　東照神君當寺數日寄宿し給ふ寺領七十三石山林有
此隱ゆ鐘鼓多曾根内近住りし跡ありしと云

○七覺山圓樂寺（眞言宗　都留郡　右左口村）　わ偽　文武天皇大寶元年草
創開山役行者也山上ゆ納經堂有其側ゆ五重の石塔ハ
聖武天皇御寄附也と云護摩堂ハ源幕府頼朝卿乃建立
ゆ今ハ礎殘り寺領十九石余山林有濱守五社權現社有
祭神（熊野　金峰山　島　伊豆　箱根）毎年四月十五日祭禮有
宗祇田國記曰七覺山と云る靈地ゆ登山乃歌徒山伏麓
とすめる而もり曉更いくるまて義張酒妻無をつく

佐さ宿坊の跡やうく咲ゆるを又とく
ゆ行ゆ文の跡と打ゆる山ゆ七のくらゆひらきゆ
○淺利村小淺利與市義遠鎧跡有義遠ハ逸見冠者清光
の子代郡淺利郷ゆ領義遠墓ハ淺利南の方有又中畑村ゆ御
前塚と云有義遠妻坂額御前の墓也と云川邊ゆ殺ゆ
流矢ゆ云と云中畑村の產神社中ゆ姨母御の祠と云有是坂額
御前を祭ゆ也や東鑑曰建仁元年六月廿九日阿佐利与市
義遠誅後国鳥坂城之介小太郎資盛姨母坂額御前申請下
向甲斐國ゆ高部村ゆ宝弓寺と云寺有義遠建立也と云

位牌有宝寺殿一箭存誉と号又上大島井村大福寺に墳墓
有此寺に飯室権現の祠有義遠の霊を祀ると云傳

○御崎明神 市川郷上野村 祭神三座倉稲魂命天照皇太神瓊々杵尊也 相傳 孝霊天皇御宇鎮座延喜式所載表明神社也 白河院永保元年御建立也天正十年三月三日 東照神君社頭に陣し給ふ慶長十四年 東照神君の命に依て社頭造営有三月三日十一月酉の日祭礼有社領四十石余社司を別当と云武田義清四代孫市川別当行房其子五郎行重又子東鑑に見えたり此邊に四釣と云所に石の祠有

新羅三郎義光を始て云傳四釣に新羅厨子の傳説あり義清此地に住し比企の郡に移り義清市川青嶋庄上野村に配流の時詠し給ふ

いにしへの小倉の山せんそ多智ちかく市川の表

風土記に市川神社と者圭田五十六東三字田 敏達天皇元年壬辰十二月所祭大山祇命也云々按に妙婦山と号所に俗に御崎明神の奥院と云て大山祇命と倉稲魂と相殿なり社有是や市川の神社あらん

○弓削明神 市川郷大門村 祭神三座天津彦々火瓊々杵尊木花開

耶姫命彦火々出見尊也鎮座不詳和銅延喜式所載弓削神
社也此邊日矢作之所者往昔弓矢作之地也延喜式
甲斐国所獻弓六十張征箭四十具三武田我清當社奉納
[illegible]
[illegible]
○淺間明神（市川郷高田村）　祭神三座瓜葉津姫命天津彦々火瓊々
杵尊彦火々出見尊也　和銅元年中造立
也　市川二の宮と称
○瀬山光勝寺（真言宗　市川郷）　本尊不動　開基和銅年中造立弘法

大師開基也其後　後醍醐天皇依勅願元亨年中再興
永録の比兵火の為に伽藍焼失今寺領七石余又大川村
平塩寺と云天台宗乃寺有り　天正の比織田氏の為に
破却せらる今八薬師堂ばかり残る
○川浦山薬王寺寿聞院（真言宗　市川郷）　開傳　聖武天皇天平
年中行基僧正の開基也本尊弘法門天（行基之作）　寺領七八
石余寛永廿年十二月　後陽成院第八皇子二品良純
法親王當國左遷ありて積翠寺村興国寺に入せられ彼
寺に住ませ　寛文十二年に明暦元年より當寺に遷る

滞留したまふ五年帰洛したまふ
西の方諏訪の真弥の和歌あまたあるを略す
熊野権現（下部村）　仁明天皇承和三年修理大夫正
信勧請也（姓氏不詳）　天正三年領主穴山伊豆守梅雪入道再
興御手洗の温泉有
富士川　国内の諸川を集て富士川と云亘廿八
代三郡の堺なり鰍沢（カジカ）より駿河国岩渕まで九十八里
流速き故に日のうちに通船す又材木等筏にして駿
河へ往也村木等中にあり　駿河風土記岩渕の
際に云甲斐檜皮材木等今筏に着て此川流れ
天神の滝屏風岩口豆岩釣子口等に舟の通ずるなり
あまたの所
夫木　ゆくかわの岩ねにたちてあらそふ川の波風なるまさるなり　曽根好忠
同　吹かへす雪とぞ見えし白波のまさごの中の川風　民部卿為家
同　岩ハしる瀬ハ嶮しき川の風しきなみたつ豆の子　清原深養父
家集　ゆくへなき足ひきの川の波なれとやすらはしてのみ　凡河内躬恒
六帖　四川のよるの波なれとも知ぬ事をさへのみ　よしなし

甲斐名勝志卷之三終